NIEしもつけ ワークシート 下野新聞

307

小学校高学年向け

年　組

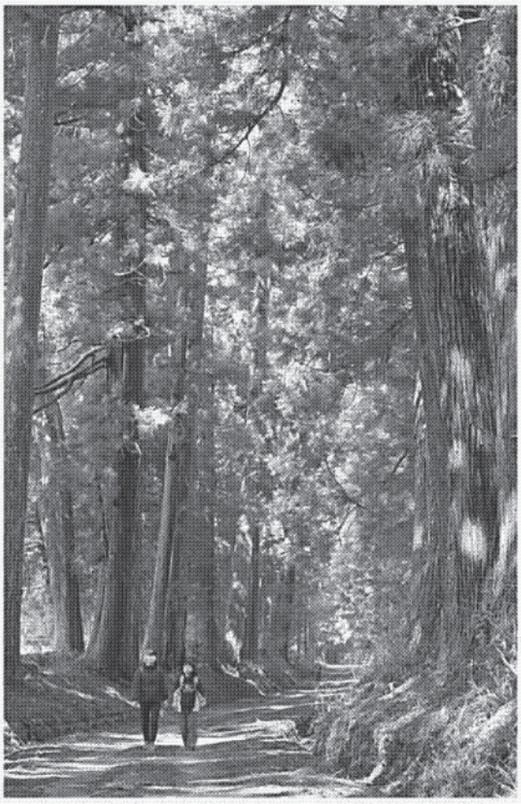
景観継承へCF型納税

植樹400年 老いる日光杉並木

県、本年度開始

補植地調査や苗木選定推進

国の特別史跡と特別天然記念物に二重指定されている日光杉並木街道について、県は本年度、クラウドファンディング型ふるさと納税（ＣＦ型納税）を活用して景観継承に取り組む。並木の後継木の補植に適した土地の現地調査や苗木選定なども行う。ＣＦ型納税は本年度中に開始し、集めた寄付は日光杉並木街道保護基金に積み立てる。　（文・写真　永鳥理絵）



昨年植樹から400年を迎えた日光杉並木。街道の景観継承が課題となっている＝３日午前、日光市野口

日光杉並木は全長37キロに約1万2千本が連なる。植樹から400年を超え、枯損や倒木により並木杉は年々減少。景観維持が課題となっており、福田富一知事は1月に県が主体となって後継木を補植する考えを公表した。数年かけて後継木補植計画を策定し、その後計画に沿って補植する方針となっている。

ＣＦ型納税は、事業継続のための資金調達方法として活用し、杉並木の景観を次世代へ着実に引き継ぐのが狙い。本年度は樹木医や測量業者に委託し、現存する木に影響を与えず苗木が100年、200年と育つ場所を探る。調査結果は日光東照宮や学識経験者、県、日光市など関係機関で共有。実務者レベルの検討会議を重ね、補植地、植え方、管理のあり方などを協議する。

苗木も並行して選定する。県は、400年経ても現存する木のDNA・系統を重視したい考え。茨城県日立市の森林総合研究所林木育種センターには、県が約30年前に持ち込んだ現存木の枝から育てた若木20本が現在も管理されており、活用する案も含めて関係者と協議していく。

県文化振興課の担当者は「貴重な日光杉並木を守り、景観を継承していくため、CF型納税を通じて多くの人に支えてもらいたい」としている。

2026年４月12日付・下野新聞１面

設問

【１】見出しを四つ書き抜きましょう。

【２】日光杉並木が現在抱える課題は何でしょうか。本文から読み取りましょう。

【３】本年度、栃木県はその課題に対して、どのようなことをしようとしているのでしょうか。本文から二つ探してまとめましょう。

【４】ＣＦ型納税とは何でしょうか。また、ＣＦ型納税を日光杉並木にどのように活用するのでしょうか。

【５】栃木県がＣＦ型納税を導入したのは、どのような思いからでしょうか。

【６】ふるさと納税はどのように活用されているのでしょうか。家の人に聞いたり、インターネットで調べたりしてみましょう。

出題・監修は宇都宮市小学校教育研究会社会部会・小森牧人雀宮東小教諭